

授業科目名	専修武道論・実習Ⅰ－柔道			授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)				
担当教員名	濱田 初幸・小澤 雄二					補助担当者名						
単位数	6 単位			履修年次	1年次		受け入れ人数	30				
授業の概要	1 柔道の基本的特性を理解し、基礎知識及び基本技能（講道館柔道の形を含む）習熟度を向上させ、実技力を身につける。 2 基本技術の理論を理解し、実践能力を高め、競技力向上との連関を図る。 3 実践的指導者育成のための基本理念、指導方法の基礎的理論を理解しつつ、実技示範力を高める。											
授業の到達目標 及び成績評価の 方法	授業の到達目標			成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %			
		()	授業	テスト	レポート	発表						
		■認知的領域	柔道の基礎理論・形・審判法の理解度、指導法を学び、基礎的な知識、能力を身に付ける。	○	○	○				○	○	20
		■情意的領域	授業態度、出席状況、日常の修練度（課外活動含む）、社会活動（審判、大会補助・出稽古・練成活動等）全般において品格ある態度を養成する。	○	○	○				○		60
■技能的領域	原則として講道館柔道式段程度の技能を基準とする。基本技の指導法および形技能を学び、実技指導能力を高めることを身に付ける。	○	○	○	○	○		20				
成績評価の基準	出席状況(30回×1点＝30点)、授業態度等(10点)、レポート課題(10点) 形の実技試験(後期実施 50点) 評価基準は、原則として講道館柔道式段程度の技能を基準とする。											
テキスト、教材 参 考 書	柔道の歴史と文化（不昧堂）											
履修条件・ 関連科目	講道館柔道初段以上を取得していることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		講義棟での授業や国際交流、講師招聘・実技の習熟度等及び進捗状況による、授業内容等の変更も有り得る。 特に講道館七種類の形については、講義順序の日程変更が有り得る。						
オフィス・アワー	濱田 月曜日10：00－12：00（504研究室）											
授業計画												
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)						
前1	濱田 初幸 小澤 雄二	オリエンテーション（心構え、授業計画等の説明） 審判法解説 審判実技法（武道館にて講義と実技・乱取・柔道衣着用）				レポート（筆記具持参）30分						
前2	〃	講道館柔道試合における礼法の理論解説と及び形（投）・乱取				予習復習 30分						
前3	〃	「競技力向上の会」に参加する										
前4	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）①				予習復習 30分						
前5	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）②				予習復習 30分						
前6	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取をを中心に）③				予習復習 30分 レポート 30分						
前7	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上④				予習復習 30分 レポート 30分						
前8	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上⑤				予習復習 30分						
前9	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上⑥				予習復習 30分						
前10	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上⑦				予習復習 30分						
前11	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上⑧				予習復習 30分						
前12	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上⑨				予習復習 30分						
前13	〃	形（投・古式）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上⑩				予習復習 30分 レポート 30分						
前14	〃	形（投・古式）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上⑪				予習復習 30分						
前15	〃	形（投・古式）・実践練習（乱取）を通して技能向上⑫				予習復習 30分						
前16	〃	前期総括				予習復習 30分						
後1	〃	形（古式・礼法）の理論と審判法の解説・実習①				予習復習 30分						
後2	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習②・実践練習				予習復習 30分						
後3	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習③・実践練習				予習復習 30分						
後4	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習④・実践練習				予習復習 30分						

後5	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習⑤・実践練習	予習復習 30分
後6	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習⑥・実践練習	予習復習 30分
後7	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習⑦・実践練習	予習復習 30分
後8	〃	形（古式）・指導法の解説・投技を中心に①	予習復習 30分
後9	〃	形（古式）・指導法の解説・投技を中心に②	予習復習 30分 レポート 30分
後10	〃	形（古式）・指導法の解説・投技を中心に③	予習復習 30分
後11	〃	形（古式）・指導法の解説・投技を中心に④	予習復習 30分
後12	〃	形（古式）・指導法の解説・投技を中心に⑤ プレテストを実施	予習復習 30分 レポート 30分
後13	〃	実技技能の総括① プレテストを実施	予習復習 30分
後14	〃	実技技能の総括② プレテストを実施	予習復習 30分
後15	〃	実技技能の総括③ プレテストを実施	予習復習
後16	〃	形の実技試験	

授業科目名	専修武道論・実習Ⅱ－柔道			授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	濱田 初幸・小澤 雄二						補助担当者名			
単位数	6 単位			履修年次	2		受け入れ人数	30名程度		
授業の概要	1 柔道の基本的特性を理解し、基礎知識及び基本技能（講道館の形を含む）習熟度を向上させ、高度な実技力を身につける。 2 基本技術の理論を深め、実践能力を高め、競技力向上との連関を図る。 3 実践的指導者育成のための基本理念、指導方法の基礎的理論を理解しつつ、高度な実技示範力を習得する。									
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 ％	
		()								授業
		■認知的領域	指導論、柔道理論、知識、審判法等の習熟度を高め、総合的観点から指導する能力を高めることができる。	○	○	○	○	○		20
		■情意的領域	授業態度（武道の精神性、礼法・態度）出席状況、日常の修練度、社会活動から品格ある態度を養成し、実践的リーダーの資質を涵養することができる。	○	○	○	○	○		60
■技能的領域	形を中心として原則、講道館柔道式段程度の実力を図ることができ、確かな実技力を獲得することができる。	○	○	○	○	○		20		
成績評価の基準	出席（30回×1点＝30点）、授業態度等(10点)、レポート課題(10点) 形の実技試験(後期実施 50点) 実技評価基準は、原則として講道館柔道式段程度の技能を基準とする。									
テキスト、教材 参 考 書	柔道の歴史と文化（不昧堂） 武道を知る（不昧堂）									
履修条件・ 関連科目	講道館柔道有段者であることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		講義棟での授業や講師招聘・国際交流・実技の習熟度、進捗状況により、内容等の変更も有り得る。 特に講道館七種類の形については、講義順序の日程変更が有り得る。				
オフィス・アワー	月曜日10：00～12：00（504研究室）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容					授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)			
前1	濱田 初幸 小澤 雄二	オリエンテーション（心構え、授業計画等の説明） 審判法の解説 （武道館にて講義と実技 乱取 柔道衣着用）					30分の予習復習（筆記具持参）			
前2	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）					30分の予習復習 レポート			
前3	〃	「競技力向上の会」に参加する					30分の予習復習			
前4	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）					30分の予習復習			
前5	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）					30分の予習復習			
前6	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取をを中心に）					30分の予習復習			
前7	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習			
前8	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習			
前9	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習、レポート			
前10	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習			
前11	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習			
前12	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習			
前13	〃	形（投・古式）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習			
前14	〃	形（投・古式）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習			
前15	〃	形（投・古式）・実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習			
前16	〃	形（投・古式）・実践練習（乱取）を通して技能向上					30分の予習復習			
後1	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習					30分の予習復習			
後2	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習					30分の予習復習			
後3	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習					予習復習、レポート			
後4	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習					30分の予習復習			
後5	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習					30分の予習復習			
後6	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習					30分の予習復習			
後7	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習					30分の予習復習、レポート			
後8	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習					30分の予習復習			

後9	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習	30分の予習復習
後10	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習	30分の予習復習
後11	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習	30分の予習復習
後12	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習 プレテストを実施	30分の予習復習、レポート
後13	〃	実技技能の総括① プレテストを実施	30分の予習復習
後14	〃	実技技能の総括② プレテストを実施	30分の予習復習
後15	〃	実技技能の総括③ プレテストを実施	30分の予習復習
後16	〃	形の実技試験	

授業科目名	専修武道論・実習Ⅲ－柔道			授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)					
担当教員名	濱田 初幸・小澤 雄二					補助担当者名							
単位数	6 単位			履修年次	3年次		受け入れ人数	30名程度					
授業の概要	専門的指導者として理論・技能・指導法・コーチング力等の総合的能力の向上を図り、体系的指導及び国際性を身につけた実践的指導者育成を目指すと共に、高度な競技能力を修得することが期待できる。												
授業の到達目標 及び成績評価の 方 法	授業の到達目標				成績評価の方法								
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力 ()	授業期間				定期 試験	その他	割合 %				
			授業	テスト	レポート	発表							
			■認知的領域	指導論、柔道理論、審判法等において高レベルの習熟度を図ることができる。	○	○				○	○		20
			■情意的領域	授業態度（武道の精神性、礼法・態度）出席状況、日常の修練度、社会活動の体験から規律および品格ある態度を養成することができる。	○	○				○	○		60
■技能的領域	形を中心として原則、講道館柔道参段程度の実力を図ることができる。	○	○	○	○	○		20					
成績評価の基準	出席状況(30回×1点＝30点)、授業態度等(10点)、レポート課題(10点) 形の実技試験(後期実施 50点) 評価基準は、原則として講道館柔道参段程度の実力を基準とする。												
テキスト、教材 参 考 書	柔道の歴史と文化（不昧堂）武道を知る（不昧堂）												
履修条件・ 関連科目	講道館柔道有段者であることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		講義棟での授業、国際交流、講師招聘・形の習熟度等により、内容等の変更も有り得る。 特に講道館七種類の形については、講義順序の日程変更が有り得る。							
オフィス・アワー	月曜日10：00～12：00（504研究室）												
授業計画													
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)							
前1	濱田 初幸 小澤 雄二	オリエンテーション（心構え、授業計画等の説明・実践練習） 審判法解説（武道館・柔道場にて講義と実技 乱取 柔道衣着用）				レポート（筆記具持参）							
前2	〃	講道館柔道試合における礼法の理論解説と及び形（投）・乱取				予習復習30分、レポート							
前3	〃	「競技力向上の会」に参加											
前4	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）				予習復習30分							
前5	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）				予習復習30分							
前6	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）				予習復習30分							
前7	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分							
前8	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分							
前9	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分、レポート							
前10	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分							
前11	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分							
前12	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分							
前13	〃	形（古式）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分							
前14	〃	形（古式）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分							
前15	〃	形（古式）・実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分							
前16	〃	前期総括				予習復習30分							
後1	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習				予習復習30分							
後2	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分							
後3	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分、レポート							
後4	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分							
後5	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分							
後6	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分							
後7	〃	形（古式）理論と実践練習				予習復習30分、レポート							
後8	〃	形（古式）・指導法の解説・投技を中心に				予習復習30分							
後9	〃	形（古式）・指導法の解説・投技を中心に				予習復習30分							
後10	〃	形（古式）・指導法の解説・投技を中心に				予習復習30分							
後11	〃	形（古式）・理論と実践練習				予習復習30分							

後12	〃	形（古式）・指導法の解説・投技を中心に⑤ プレテストを実施	予習復習30分、レポート
後13	〃	実技技能の総括① プレテストを実施	予習復習30分
後14	〃	実技技能の総括② プレテストを実施	予習復習30分
後15	〃	実技技能の総括③ プレテストを実施	予習復習30分
後16	〃	形の実技試験	

授業科目名	専修武道論・実習Ⅳ－柔道			授業形態	講義・実技		授業科目区分	専攻科目 (専修科目)		
担当教員名	濱田 初幸・小澤 雄二					補助担当者名				
単位数	6 単位			履修年次	4年次		受け入れ人数	30名程度		
授業の概要	専門的指導者として理論・技能・指導法・コーチング力等の総合的能力の向上を図り、体系的指導及び国際性を身につけた実践的指導者育成を目指すと共に、高度な競技力を修得する効果が期待できる。 県指導者講習会に参加し審判ライセンスを取得し、地域で開催される関連事業に参加するなど大会運営力を身につけることができる。									
授業の到達目標 及び成績評価の方法	授業の到達目標				成績評価の方法					
	D Pで 目指す 資質・ 能力	実技力、実技指導力、指導者基礎力	授業期間				定期 試験	その他	割合 %	
		()	授業	テスト	レポート	発表				
		■認知的領域	指導論、柔道理論、審判法等において相当に高度な知識、技量を習得することができる。	○		○	○			50
		■情意的領域	授業態度（武道の精神性、礼法・態度）出席状況、日常の修練度、社会活動を通じて、社会性を習得することができる。	○		○	○			30
■技能的領域	原則として講道館柔道参段以上の実力を図ることができる。	○		○	○			20		
成績評価の基準	授業態度、出席状況、授業への取り組み、社会貢献等を総合的に評価する。 評価基準は、原則として講道館柔道参段レベルの実力を基準とする。									
テキスト、教材 参 考 書	柔道の歴史と文化（不昧堂）武道を知る（不昧堂）新しい柔道の授業づくり（大修館書店）									
履修条件・ 関連科目	講道館柔道有段者であることが望ましい。			備考(教員メッセージ含む)		講義棟での授業、国際交流、講師招聘・形の習熟度等により、内容等の変更も有り得る。 特に講道館七種の形については、講義順序の日程変更が有り得る。				
オフィス・アワー	月曜日10：00～12：00（504研究室）									
授業計画										
回	担当教員名	授業内容				授業時間外の指導等 (予習、復習、レポート等課題の指示)				
前1	濱田 初幸 小澤 雄二	オリエンテーション（心構え、授業計画等の説明） 審判法解説（武道館にて講義と実技・乱取 柔道衣着用）				レポート（筆記具持参）				
前2	〃	講道館柔道試合における礼法の理論解説と及び形（投）・乱取				予習復習、レポート				
前3	〃	「競技力向上の会」に参加								
前4	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）				予習復習30分				
前5	〃	形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）				形（投）及び対人動作における理論と基本技術の習得（かかり練習・乱取を中心に）				
前6	〃	県指導者講習会に参加し、審判ライセンスを取得する。				予習復習30分				
前7	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分				
前8	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分				
前9	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分、レポート				
前10	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分				
前11	〃	形（投・固）・指導法の解説・投技を中心に				予習復習30分				
前12	〃	形（投・固）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分				
前13	〃	形（古式）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分				
前14	〃	形（古式）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分				
前15	〃	形（古式）の理論と実践練習（乱取）を通して技能向上				予習復習30分				
前16	〃	前期総括				予習復習30分				
後1	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習				予習復習30分				
後2	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分				
後3	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分、レポート				
後4	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分				
後5	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分				
後6	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分				
後7	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分、レポート				
後8	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分				
後9	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分				
後10	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分				
後11	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分				
後12	〃	形（古式）の理論と審判法の解説・実習・実践練習				予習復習30分、レポート				
後13	〃	実技技能の総括①				予習復習30分				

後14	〃	実技技能の総括②	予習復習30分
後15	〃	実技技能の総括③	予習復習30分
後16	〃	実技技能の総括④	